

「好きな芸能人」 ゆきこさんの作品



丹羽さんへの感謝の言葉

任意団体くじら雲を立ち上げてから今日まで、丹羽さんは走り続けてこられました。しょうがいのある子どもたちが地域の人たちと一緒に元気に暮らせるようにと、丹羽さんが沢山の保護者や市民に声をかけ、余暇活動を始めたのが、くじら雲の始まりです。

私は、くじら雲がNPO法人になり、重度しょうがいのある方たちのグループホームを作りたいと動き始めてから運営委員として協力するようになりました。「専業主婦」といわれる女性たちが、何千万円もの建物を落札するという大胆なことを決断できるってすごいなあ、と感嘆したものです。それだけの切実感と意気込みがあったのでしょう。またそれを支える地域のつながりのある人たちのボランティア活動も、とても力強いものでした。

そして気がついてみれば、今のかいゆうは国立市各所に拠点がある、それなりの社会福祉法人にまで成長しました。そして何の因果か、私が理事長をしています。

丹羽さんの小さな身体のどこに、そんなエネルギーがあるのか？朝から晩まで、小回りのきく頭と体で隙間なく動きまわり、必要とあらば、どんなことでも軽々とやっってしまうという恐れを知らぬその行動力は、誰にでも真似できるものではありません。でも、その心意気は今のかいゆうの底力として継承されています。正直に誠実に

と、口癖のように言っていた丹羽さんの、人との嘘のない向き合い方から私も多くを学びました。ちょっとおっちょこちょいで時々失敗してしまうお茶目な一面のある愛すべき人でした。そんな丹羽さんが、かいゆうを退職したからといって、何もしなくなるのはもったいない。これからも私たちを見守り続け、時々小言をいただけたらうれしいです。

丹羽さんが目指し、見続けた夢を、私たちは引き継いで、次につないでいきたいと思います。

丹羽さん、これまで本当に、たくさんの人たちを助け、励ましてきてくれて、ありがとうございました！お疲れ様でした！そしてこれからは、地域の良き隣人としてのお付き合い、よろしくをお願いします。（理事長 遠藤良子）

初代くじらハウス



※丹羽康子 当法人の理事。今年3月末に現場を退く。理事退任は6月19日。1992年の学校五日制施行にともない、「国立五日制の会」の立ち上げに参加。同会に関わるボランティアが、任意団体くじら雲を組織し、後に当法人の前身であるNPO法人くじら雲となる。

相談支援エブシロン

Tel 042-505-7021 Fax 042-505-7669

国立に来て3年

今年の3月までくじらハウス、この4月からエブシロンでお世話になっています、吉埜（よしの）です。娘と息子が生まれ育った伊豆七島の新島から国立に引っ越してきて丸3年が経ちました。

今年4月に武蔵台学園の高等部に進学した息子は、発達の遅れがあつて愛の手帳3度を持っています。マイペースで、とても人が好きな性格です。また、慢性良性好中球減少症という血液の疾患があります。好中球は、白血球の半分以上を占め、体内に侵入した細菌やカビなどをいち早く発見して体を守るという役割を担っています。好中球減少症は白血球の中の好中球が、とても少ない状態で、普段は無症状なのですが、細菌感染症を起こしてしまうと重症化することがあります。

息子は、赤ちゃんの頃から肺炎や気管支炎などで十数回の入院をしましたが、新島村には入院設備のある医療機関がないので、都内の病院に入院しなくてはならず、3歳違いの娘を島に残し、息子に付き添って飛行機に乗ること度々でした。

また、言葉や発達の遅れがあつても療育ができる機関はないので、年に数回内地から来る精神科医や臨床心理士の心理相談を受けたりしていました。そこで、息子の中学進学を機に、とにかく病院と支援学校が近い場所に移り住んで安心した生活を送りたいと思い、転居してきました。

国立に引っ越してきて、息子が放課後等デイサービスを利用し始めたのは中学1年の6月。それまで、しょうがい児向けの福祉サービスが、（ほとんど）ないところに住んでいたので、放課後も夏休みも、ずっと親子で過ごしていました。

通い始めた放デイは、あつという間に息子にとって、なくてはならない、学校と同じくらい大切で大好きな場所になりました。私にとっても、頼れる相

談先が増え、娘と過ごす時間や、一人時間が増え、息子に対しても（少しは）余裕をもって接することができるようになったと思います。

それまで、クラスの子の多くが参加するスキー教室や、年に一度のお祭りなどに行けず、ひっそりと家の中で過ごすことの多かった息子でしたが、今では夏休みも春休みも毎日通う場所があり、大好きなスタッフさんや友達がいる居場所ができて大忙しです。

また、かいゆうで出会ったみなさんのおかげで、ここ十数年の間に凝り固まってカチカチになっていた私の価値観や固定観念が少しずつ溶かされつつあると感じています。

息子のしょうがいや持病を理由に、遠慮したり我慢したり、時には卑屈になっていた私の心も随分開放されて楽になり、困りごとがあつたら身近な人に「助けて」と言っていいたと思えるようになりました。

どんなに忙しくても必要とあらば風を切って自転車を走らせ飛んでいき、誰に対しても、いつもまっすぐ真剣に向き合う丹羽さんからは、身をもって動くことの大切さや気負わない心の持ちようを教えてくださいました。国立1年目の春は、島を離れて飛行機で降り立った調布の飛行場から家までの道すがらの満開の桜に感動し、2年目の春は桜の木に付けられている番号を数えながら大学通りを息子と歩き、3年目の去年はコロナ感染症の感染予防のため家に籠もりきりでした。

4年目の今年は、息子の放デイからの帰り道、矢川通りと、さくら通りの桜の開花から散ってゆくまでを見ながら歩く毎日。梅、桃、桜、菜の花、水仙、あじさい、秋にはイチョウと、季節ごとに様々な装いをみせてくれる国立の町並みは飽きることがありません。

これからも島の仲間たちの温かさも忘れることなく、ここ国立の季節の彩りと、たくさんの人たちとの交わりを楽しみに、笑って過ごしていけたらと思っています。今後ともよろしくお願いします。（吉埜）

誰もが集えるみんなの居場所（10：30～18：30日祝休み）
日中一時支援事業（15：30～土日祝休み）

たまりば宙（そら）Tel/Fax 042-843-0443

一日一日を大切に

新型コロナウイルス感染症から1年以上が経ちました。去年秋には、冬には、来春にはと、終息を期待しながら過ごした毎日ですが、どうやらウイルスの方は、いつまでも蔓延するようですね。仕事時間も短縮されて自分時間が増え、お陰で体力づくりの一環として、犬の散歩を2時間かけてするようになりました。歩数は、なんと10000～15000歩

!! 毎日違う道を通ったりして行く先々の景観も凄く刺激になります。去年高齢者の仲間入りして、この大変な時期に、お仕事があり、日々の生活に活力を与えて頂けていることに感謝しています。

宙のお客様、地域の方々、日中一時の利用者の方々、そして宙スタッフの方々と、一日一日を大切に楽しみながら、これからも過ごしていこうと思っています。（荒木）



放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661

五日制の会の活動から学んだこと

新年度を迎え、新しい生活に慣れてきた頃ではありますが、新型コロナの影響で、まだ今まで通りとはいかず、くじらっこでも、毎月第2、第4土曜日に参加している、くにたち五日制の会の活動へも参加できたり、できなかったりしています。

五日制の会は、私が、かいゆう（その頃は、くじら雲でしたが）で働ききっかけになった団体で、かいゆうが事務局を委託されていたり、かいゆうのスタッフが参加しているイベントもあり、毎回楽しく

参加させて頂いています。

なぜ、この五日制の会の話を書いたかということ、会の代表が丹羽さんであり、丹羽さんが今年で退職されたからです。丹羽さんから教えて頂いたことを、ひとつ書いてみようと思います。

五日制の会の活動に多く参加するうちに、事務局の担当になり、丹羽さんとも話すことが多くなりました。「〇〇さんがイベントに参加したいと言っているけど、どうしたら行けるか？」と行けない前提での話でなく、どうしたら参加していけるか？どうしたら楽しめるか？を考えていくことを学んだのが一番印象に残っています。この考え方を忘れずに、これからの活動や支援へ生かしていきたいと思います。（市川）

居宅介護等事業・訪問介護事業 くじらハウス 短期入所 おにぎり

Tel 042-505-7034

Fax 042-505-7035

丹羽さんのこと

春は出会いや別れが多く、新スタートを切る人も多くいると思います。かいゆうにも新しいスタッフ（10代の方々が眩しい〜笑）が多く入ってきて嬉しいかぎりです。そんな中、3月で、かいゆうを引退された丹羽さんのことを書かせて頂きます。

丹羽さんとの出会いは、自分が、かいゆう、あの頃はNPO法人くじら雲で、事務所が国立第三公園の図書館前に少し古い長屋でありました（歴代のくじらハウスの写真が、今のくじらハウスに飾ってあるので興味ある方は見て下さい）。その中で元気に動き回っている人って印象でした。今でもそのイメージは変わることがないです。元気と行動力がある丹羽さん。常に何事にも一生懸命に見えました。

初めのころは丹羽さんのパワフルさに圧倒されて

しまい、自分の考えが言えないことがありましたが慣れてくると、こっちの意見を言うタイミングを覚え、お互い意見をぶつけ合うのがとても楽しかったです。皆の意見がまとまらない時など、丹羽さんが憎まれ役を買って出てるようでした。

自分の中では丹羽さんは、職場でのお母さんみたいな存在です。支援が終わって本部に戻ってきて「お帰り。お疲れ様」と声をかけてもらうとほっとした気持ちになりました。仕事、体調面でも気にかけてくれることが多く、ありがたかったです。

いつも周りに気を使ってくれる丹羽さん。今後は自分のことを大切にして頂ければと思います。そして時には、くじらハウスに顔を出して下さい（自分が寂しいので）。落ち着いたら、また一緒にブランデーを飲みましょう（笑）。（竹平）

生活介護事業所

くじら工房 ニューフェイス です！

Tel/Fax 042-843-3450

4月から、くじら工房で働くことになりました上原一輝です。介護の仕事を始めようとしたきっかけは、友人が介護の職に就いたことでした。友人から介護職の仕事のことを聞くうちに興味を持ち、私でも、人の役に立つことができるのではないのかと嬉しい気持ちでした。しかし、くじら工房での実務研修の時、元々人見知りの私は利用者さんと、あまりお話することが出来ず、この仕事は私には向いていないのではないかと感じました。そんな中で、何とかコミュニケーションをとることが出来た時、喜びや、やりがいを感じました。その喜びを感じる為に、



利用者さんと、たくさんコミュニケーション取れるように頑張りたいと思います。

私の趣味はゲーム、野球です。特に今は「ウマ娘」というゲームにハマっています。野球は中学生の時に

やっていました。ポジションはレフトでした。好きなチームは横浜ベイスターズです。

最年少ということなので、一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。（上原）



くじら工房の刺繍の布巾。
包装の方法を変えて、以前よりも、
見栄えが良くなるように工夫しました。

ミラハウス

地域であたりまえに
生きる

毎日が“コロナ”一色。日々、感染予防などにバタバタしているうちに、あっという間に1年が過ぎ、新年度が始まりました。新年度と言えば、どこもかしこも人事異動、就職、退職など、人の出入りが活発になります。我々かいゆうも御多聞に漏れず、人が動いています。

その中でも、ひとつの時代が終わって新しい時代が始まる象徴となるような出来事がありました。かいゆうの顔と言っても過言ではない丹羽康子さんの退職です。

丹羽さんはまだ、今のよう、しょうがい者を取りまく社会が成熟するずっと前、しょうがい者に向けた行政の制度が整備されるずっと前から、しょうがいのある方もない方も、あたりまえに地域の中で生きていくという理念を掲げて突っ走ってきました。



時には暴走もありましたが、このエネルギーこそ、かいゆうが6寮のグループホームを運営するまでの規模に成長した原動力のひとつだったのではないのでしょうか。今のかいゆうは、私も含め、創業時を知らない職員の方が多数派になっていますが、この、地域であたりまえに生きるという理念、丹羽さんの撒いた種は、我々職員の中に、しっかりと根付いていると思っていますし、これから新しく一緒に働くスタッフにも、しっかりと伝えていかなければいけないと、自分自身に言い聞かせています。

ミラハウスは、まだ3回しか桜の季節を迎えていない、かいゆう最後発の施設です。まさに、これからいろいろな経験を経て新しい歴史を作っていくというグループホームです。これからの未来はもちろん大事ですが、かいゆう創業時の理念や関わった方の思いという過去も、未来同様に大事にして歩んでいきたいと思います。(中村)

来歩ハウス

受け継が
れるもの

丹羽さんに出会ったのは20年程前。ボランティア団体「くじら雲」の頃からお世話になっています。当時から、丹羽さんの行動力と、みんなのために一生懸命な姿勢は印象的でした。利用者や家族のニーズを聞き、いろいろな企画を立てて実行し、海水浴やスキーの企画も、その頃から始まりました。普段、遠出などしない自分にとっても、海水浴やスキーは楽しみな活動でした。

初めて海水浴に参加した時の思い出で、一番印象に残っているのは、海から上がり、帰る準備を始める時に、利用者さんのTシャツが海に流されて無いことがわかり、丹羽



さんの一声でみんなで流されたTシャツを探すことになったことです。内心は見つかるわけがないと思っていましたが何と奇跡的にもTシャツが見つかり、みんなで大喜びしました！(笑)

時が経ち「社会福祉法人かいゆう」になった今も丹羽さんの、みんなのために一生懸命な姿勢は変わらず、他のスタッフにも受け継がれているのだと思います。たびたび丹羽さんのおせっかいが過ぎて、スタッフから煙たがられることもあります(笑)、おせっかい=人のために一生懸命になれる人、と解釈しています。みんなから会話でネタにされたりするのも丹羽さんの人柄で、みんなから好かれているからではないのでしょうか！そんな丹羽さんも3月末で卒業されました。たくさんのご指導と思い出をありがとうございました。(川鍋)

メゾン・ド・歩人

丹羽さんへ

出会いはリクルートの求人誌『タウンワーク』だったかな？求人広告の写真から始まりました。「女性が長く働ける職場です」のキャッチコピーに惹かれて入職し、早10年が経ちました。今のヘルパー人生があるのも丹羽さんのおかげと思っています。本当にありがとうございます。

現在は、歩人の入居者であるNさんの支援で、思い出のエピソードがあります。その頃は、私自身の方が、ご本人より支援を楽しんでしまい(この指摘は白川さんから受けました)Nさんの支援が上手くいかないことが多々あった頃でした。国立の駅構内のトイレから出られなくなってしまう、くじらハウスへ、ヘルプ連絡を入れました。出てくれたのは丹羽さんで、その時「丹羽が行くよ」とすぐに来てくれました。丹羽さんが支援をしている姿をまだ見たことがなかった私は、プロの支援が見れる！と期待

しました。結果は「あれえ、昔はこうやって変なこと(現実離れした格好)をしたら、すっと立ってくれたんだけどなあ…」と、思わず「ぷっ」でした。その後、何とか動くことが出来て、「もう丹羽は居ない方がいいね」と去って行かれました。

私の好きな丹羽さんの良さは、どうのこうのと理由付けせず、即実行なところでしょうか。歩人に所属になった時も、様々な問題に、とにかく即ぶつかって決してかわさない。と思ったらコロっとこけたりして(笑)、ついていくのは大変でした。が、だからこそ今の私があるのかな？と思っています。

NPOから社会福祉法人に変わって仕事に対する何か熱量が変化した時も、変わらず熱い丹羽さんがいてくれて、いろいろ冷静になれました。時代や環境が変わっても、丹羽さんから教えてもらったことは、きっと忘れないだろうなあ、教師であり反面教師であり、なかなかいない存在です。なので、これからも何かとウロウロして下さい。よろしく願い致します。(小野)

はじめの一步ハウス

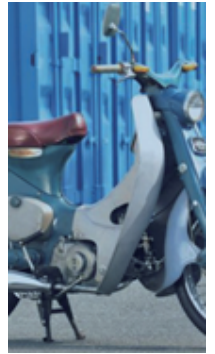
新しいことへのチャレンジ

一年以上経った、このコロナ禍での生活。新しい生活に慣れてきている一方で、「以前のような生活」が出来ていないことへのストレスから気分が落ち込んだり、怒りやすくなったり、精神面に影響が出ることもありました。このままでは、いい生活が出来ないと思い、何か新しいことにチャレンジしたいと思っていました。その中で、特にやってみたいのが「バイクの免許を取る」ことです。

私は社会人になってから「日本一周の旅をしたい」と思っていました。今まで知らない世界を知ったら自分はどう変わるのだろうかという考えがずっとあったからです。

そんな中、ある女性の話を耳にしました。その方は10歳で家を追い出され、その後、結婚しますが、自らも働いて家事もこなし「自分の時間」を持つことが出来ませんでした。しかし、57歳の時に、旦那さんを説得し、一人でカブ（原付）に乗り、日本を一周しようと決意します。そこで様々な人に助けられた経験から「人を笑顔にしたい」と63歳から食堂を開き、85歳になる現在も、一人で切り盛りをしているというのです。

この話を聞いた時に、何か始めることに、年齢など関係無いんだなと思えました。いつか旅を実現出来るように、今の内に、お金を貯めて、まずは教習所に行く所から始めていきたいと思います（笑）。（一之木）



とれいる 昭和は遠くなりにはけり

皆さんは、昭和と聞くとどんなイメージを抱きますか？私は昭和60年生まれですが、昭和と聞くと活気ある雰囲気を感じます。

たとえば、自動車や音楽等の物作りにしても、今より熱量があった様に思います。

今は少し閉塞感を感じるような時代かもしれませんが、昔のものに触れることによって、吸収できることは沢山あると思いながら生きております。

（佐々木）

※写真はジオラマです。



すうえる 永遠の12歳

前回紹介した猫のあさりさんが二月中旬の末明に亡くなりました。家猫になって、もう少しで満8年を迎えるところでした。年齢はわかりません。2012年11月、米袋に入れられ、捨てられていたところを保護され、武蔵国分寺公園の地域猫に混じって懸命に生きていました。2013年正月、交通事故に遭いました。私が出会ったのは2月でしたが、まだ足を引きずっていました。つくづく運が悪いと言えないこともないけれど、強い生命力の持ち主だったのかも知れません。病気知らずの先住猫くるみさんとは真逆でしたが、甘えん坊の可愛い猫でした。2019年の連休明けに急に下肢が衰え、体重が減り、やがて血糖値が急上昇し、服薬二種、インスリン注射、そして強制給餌という具合に、病状に応じて私がやらなければならないことも増えていきましたが、その中で、よく耐えてくれました。一年かけて体重が戻ってきて、血糖値も安定してきたので、迎えた2021年も安泰かと思ったのも束の間、正月が明けると坂道を転がるように弱っていき、不意打ちに等しい形で去ってしまいました。

急に話が変わりますが、あさりさんが亡くなる三日前、還暦を迎えた私は、ジャケット・帽子・手袋の「赤い」三点セットを職場の友人たちから有難く頂戴し、この先の人生は、利息というかオマケなのだから、今以上に臆せずに生きて行こうと考えました。チョコちゃんが永遠の5歳なら、これからの私は12歳になろう。無敵だった小学六年生に戻って、大好きだった小説みたいに『夏への扉』を見つけに行こう。先日も、高尾山を歩き回り素敵な筋肉痛を味わいました。究極の夢は、寅さんになることかな？

PS1. 縁あって、くじらと出会って十二支を数え、二回目に入りました。丹羽さん（+松田さん）には大変お世話になりました。これからも、至らない私を見捨てず、おつきあいのほどをよろしくお願いします。今は毎日五時起きと早起きですが、この文章を書いている今は、ほぼ徹夜。お酒は弱いけれど夜はまだ強いみたいです…。

PS2. そうこうしている間に、家庭内野良猫と化したくるみさんが、朝ご飯欲しさに私の周りをウロウロし始めました。はいはい、承知致しました。仮眠したら月命日のお参りに行くから留守番よろしく！（坂本）

かいゆうに入社してから色々とお世話になりました。最初配属になった居宅で、なかなか上手いかない時に、家に呼んでもらい、アドバイスしてくれたこともいい思い出です。計画相談という立場からも、沢山話を聞いてもらいました。話が食い違うことも、今となっては笑い話ですね。退職しても先輩として、また相談に乗って下さいね。ひとまず、お疲れ様でした。またすぐお世話になると思います。(中山)

丹羽さんとは、前の職場のお仕事で、城山を歩いて国立3中へ送り迎えをしていた時からの顔見知りだったのでしょうか？

3人の子育てをしながら、福祉の現場に復帰したばかりの頃、夜中に寝ぼけて屋根裏の半開きの扉に額をぶつけ、恥ずかしいたんこぶと傷を負った私に、いち早くのぞき込んで(丹羽さんが小柄だからそう見えたのかも)、「あなたどうしたの？」

と声をかけてくれたのは、やっぱり丹羽さんでした。

いつも正直に、思ったことを言ってくれる丹羽さん。働いているスタッフだけでなく、家族のことも気にかけて、温かい言葉をかけてくださり、ありがとうございました。(三浦)



利用者の方と。右が丹羽さん

丹羽さんから怒られたことがあります。

それは市民まつりの企画を、丹羽さんから広報委員として引き継いだときのことです。

私は、お揃いのエプロンをみんなで着たいと思い、新しく注文したのですが…。

それまで市民まつりで使っていたエプロンは、地域のボランティアの方々が作ってくださったものだったのです。

そのため、とても失礼だと、ひどく叱られました。

「そんなこと知らなかった」と反論した私に、

「敬意があれば、自分から知ろうとするんだよ」と。

なんて無茶な！と当時は思っていました。

でも、そのエプロン作りに携わった方々の顔を知り、

モノづくりの大変さを経験していくうちに、

当時、感じとれなかった感謝の気持ちでいっぱいになりました。

このことから、「私が見てる今」は、「誰かが積み上げてきたこれまで」

と地続きなんだと思うようになりました。

周りに関心を持つこと。

これって、地域で生きるってことですよ？

丹羽さんは、私に地域の一員として生きることを期待してくれたんだと思っています。(家村)

今までお疲れ様でした。どんな時でも「利用者さん」のことを考えて、より良い生活が出来るように行動・提案をして下さいました。そのお陰で今までかいゆうは支えられてきました。「今、利用者さんが求めている支援」を常に考えて行動していきたいと思っています。本当にありがとうございました。(坂野)

お多肉とま日記

第2回 桃太郎 ももたろ(チワワリニセ)

ベンケイソウ科 エケベリア属 原産地 中央
皆さまこんにちわ 楽しく多肉ライフ満喫中ですよー!!
今回は前回と同じくエケベリア属の桃太郎ちゃんの紹介です!!
この種は交配で生まれた子です。母コロータ、父チワワエース...
父と母の好特徴であるツンツンしがロゼット葉について人気種!!
その上、寒さ暑さにも比較的強い!! 育てやすい(世話いらす)のも人気です。
1個体差で青白っぽかったり緑が強めだったり尻までのグラデーション
が違ってたり... よく見たらあれもこれも桃ちゃんだあ〜と
なりがちですが可愛いのでゆるします。
まだまだ紅葉中... 尻のFまで色づいてしま... いやしです。
小野肉 多呂子



* 今日一品 グループホームのごはん

カブと春キャベツのポトフ

材料 (2人分)

カブ 1人1個
春キャベツ 半玉
人参 1本
ウインナー 16本
ブイヨン 1個
塩コショウ 適量
コンソメ 大さじ2杯
オリーブオイル 適量
水 カブが浸るくらい



春の味覚をいただく

作り方

- ①各材料、適当な大きさに切る。カブは大きめに。
- ②水はカブが浸るくらい入れ、切った材料を煮込む。
- ③ひと煮立ちさせ、水が減ってきたら、またカブが浸るくらいの水と、ブイヨンとコンソメ、塩コショウを入れる。
- ④仕上げにオリーブオイルを1周入れる。

献立メモ

かぶは、かぶら・すずなとも言い、春の七草の一つに数えられる春に美味しい野菜です。春キャベツとともに、たくさん食べて下さい。スープやシチューなどの汁物は、ともすれば塩分が過剰になりがちです。塩分を排出するカリウムの多いアボカドのサラダや、ほうれん草・小松菜などのおしだし、また、昆布・めかぶ・もずく・わかめなどで、塩分の排出に心がけましょう。 栄養士 佐藤公子

思えば遠くへ…

丹羽さんが2001年にNP0くじら雲を設立し、2002年に最初のグループホーム「一步ハウス」が出来ました。これらは、丹羽さんの情熱の賜物です。この情熱に感化され、呼応した関係者が出資して、この競売物件は必ず落札するとの強い意志で、若干相場より高めで入札、無事に落札して一步ハウスの開設となりました。小さな喫茶店「南風」（あだち充による漫画『タッチ』からの命名らしい）を併設して、親たちの運営で、ご近所との交流も図れる様になりました。あれから、もう20年。この間「来歩ハウス」「メゾンド歩人」「すうえる」「とれいる」、「ミラハウス」とグループホームの建設を行い、事業も拡大して、年間予算約3.6億円、アルバイトも含めて100人程度の規模に成長したのを見て、「思えば遠くまで来たものだ」との感慨深いです。この間、いろいろと問題はあったものの、大禍なく来れたことは、丹羽さんをはじめ、関係者のみなさんの弛まざる尽力の成果です。

私は、2013年4月からは、理事に就任して運営に関わりましたが、どれほどのお役に立てたか、甚だ心許ない限りです。社会人を2012年に引退したあと、まさか自分の住む町（在住68年）で、このような事業に関わることになるとは思ってもいませんでした。会社運営と全く異なる環境と組織の中で、しょうがいしゃ関係の様々なこともわからずに、戸惑うことも多い日々でした。企業では、入社以来、長い年月をかけて、社員の教育を行い、不文律的な「しきたり」などを身に付けさせて、ある種の行動規範を形成しますが、「かいゆう」では組織が「アメーバー」的で戸惑いました。徐々に組織の整備も進んでおりますが、これからも事業運営では、職員関係者の待遇をどうしたらよりよくして行けるかと考えていかなければならないと思っています。そのためには、収益を大切にしていけることが鍵になるでしょう。

しょうがいしゃ支援で収益のことを言うのは、場違いな感じを持たれるかもしれませんが、収益をしっかり確保して、職員関係者の安定を図らないと、質のよい支援は行えないと思っています。また職員もプロとしての自覚を持ち、自己研鑽に励んで、仕事の効率も考えて、事業全体の質の向上を図っていただければと思います。そのような意味で、何かお手伝いできることがあれば、いつでも相談に乗ります。

最近気になっていること

「させていただいている」という言い方、この10年ほどで、よく聞かれます。何か他人事みたいで気になります。会社でも、「課長をさせて頂いてます」とか言われましたが、「課長をしてるんだよ」と訂正させてました。この言い方は、誰かに頼まれて業務をしているように感じて、責任感が希薄に思えるのです。職責に任命されたことから、「させて頂いている」という発言が出てくるのではと思いますが、職責に就いたからには自主的に、責任を持って業務に従事するので、自信と責任を持って「している」と言うべきと思っています。組織も仕事も自分の物と思えば、重くても、辛くてもガンバレと思います。「我が物と思えば軽し傘の雪」でしょうかね。

また、会うたびによく言われる「お疲れ様」。好きではありません。朝、外出先から会社に電話をした時にも開口一番、「お疲れ様です」と言われて直ちに「まだ疲れてない、朝ですよ」「おはよう」が普通じゃないかと。それ以降、私には「お疲れ様」と言う社員が減りました。仕事が終わりと、帰宅時とか夕刻、帰社した時とかには「お疲れ」でしょうが、朝から言われるのは些か奇妙です。この言い方は、定時出社が無い、24時間営業的な、芸能界で頻繁に使われているのが、広まったのではと思いますが、「いつも疲れた人」みたいに感じて、どうにも馴染めずにいます（本当は、いつも飲んで午前様だったので、疲れてたけど…）。（兵頭富雄 かいゆう理事）

編集後記 現場を退いた大先輩に寄せるスタッフの思いのつまった号となりました。とは言うものの、丹羽さん、まだまだ五日制の会で現役バリバリ活躍されるようですよ◆国立市では5/1の週から、65才以上の方への新型コロナワクチン接種が始まります。4/26の朝、開始後2分で予約打ち止めになったとか。国立市報5/5発行の最新号に、発生割合の高い副反応のことが出ています。2回目の接種で疼痛90.8%、倦怠感69.4%、頭痛53.6%、37.5℃以上の発熱38%と。48h以内に出た症状のみで、これだけの数値です◆昨年12/2、参議院地方創生及び消費者問題に関する特別委員会で、柳ヶ瀬議員の質問に対し、厚労省の佐原総括審議官が「PCR検査陽性＝ウイルスの感染性の証明ではない」と答弁しています。厚労省HPには感染者数ではなく、「陽性者数」が記載されています。なのにメディアは「感染者数」と報じていますね。（な）



★職員の入退職者★

入職	
上原一輝	2021. 4. 1
宮澤 有里	2021. 5. 1
大植 千之	2021. 5. 1
退職	
杉本梨乃	2021. 4. 30



facebook

見てね！

ホームページ

